

天井から虫

市民から「天井から虫が落ちてくる。どうしたらよいのでしょうか。」という相談が保健所にありました。

天井から虫が落ちてくる事例の原因の多くは、ハエ類の幼虫です。その理由は、次のように考えられます。屋根裏でネズミが何らかの理由で死ぬと、その死骸の腐敗臭でハエ類成虫が集まり、産卵します。やがて、ハエ類幼虫は、ネズミの死骸を食べて、成長します。ところが、死骸を食べつくすと、次の餌を求めて、徘徊し、天井板の隙間から下に落ちてきます。多くは、死亡した動物を餌とするニクバエ類やクロバエ類などの幼虫です。こうしたハエ類の幼虫には、脚がありません。しかし、相談のあった虫は、脚がありました。更に腹部には蛾幼虫に特有の腹脚と呼ばれる器官がありました。

ノシメダラメイガ幼虫

腹脚は、4対(尾脚を含まない)でした。腹脚の先端には、鉤爪があります。その形や並び方は、蛾類幼虫の科の特徴を表すことがあります。今回、天井から落ちてきた蛾幼虫の鉤爪は、環状でした。これはメイガ科の特徴の一つです。

前胸の気門の前にL刺毛と呼ばれる毛があります。本数が科や種の特徴を表します。2本確認できました。

胸部や腹部の各節にSD₁刺毛と呼ばれる毛があります。中胸及び腹部第8節のSD₁刺毛の基板は、リング状に淡い黄色に着色している特徴がありました。これらの特徴から、ノシメダラメイガと鑑別しました。

食品害虫のチャンピオン

ノシメダラメイガは、食品害虫のチャンピオンともいえる存在です。以前、中京保健所がパンなどの製造業の施設にノシメダラメイガのフェロモントラップを設置し、生息調査を行いました。施設によっては、おびただしい数のノシメダラメイガが採集されました。また、家庭でも食品類から発生することは珍しいことではありません。極めて普通に私たちの周辺で生息しています。

ノシメダラメイガがなぜ天井から

食品類が置かれていない天井裏から落ちてくる理由は、次のように考えられます。ネズミが屋根裏で死ぬと、本来なら、ハエ類が産卵し、孵化した幼虫は、死骸を餌とします。ところが、冬場のハエ類が少ない時には、その死骸は、ハエ類に食べられることもなく乾燥してしまいます。乾燥したネズミの死骸では、ハエ類幼虫は、発育できません。ところが、乾燥したネズミの死骸は、ノシメダラメイガ幼虫の餌になるようです。

ノシメダラメイガはもともと乾燥した植物質の餌を好みます。ヌカやオートミールなどで育てると、非常によく成長します。しかし、今までの相談でもノシメダラメイガが天井から落ちてくる事例は幾つかありました。動物質である乾燥したネズミの死骸でも、ノシメダラメイガ幼虫を発育させることが可能だと思われます。今回のケースも、ノシメダラメイガ幼虫が乾燥したネズミの死骸で発育し、その後、徘徊し、天井の隙間から落下したと思われます。

